

令和4年度 事業所自己評価結果の公表

公表：令和5年3月31日
アンケート期間：令和5年2月17日～令和5年3月7日

保護者等からの事業所評価の集計結果

保護者等数(児童数) 14名

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースは十分に確保されていますか。	11	2		1
	2 職員の配置数や専門性は適切ですか。	13	1		
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっていますか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていますか。	10	1		3
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていますか。	14			

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されていますか。	14			
	6 個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていますか。	10	1		3
	7 個別支援計画に沿った支援が行われていますか。	12			2
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されていますか。	13	1		
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がありますか。	3		7	4

事業所における自己評価結果および改善内容・改善目標

回答職員数 7名

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		・子どもたちの状態に合わせて、棚の位置やロッカーの位置など部屋のレイアウトを変更している。	・棚の上に一時的に物を置くことがあるので、別の場所に置くなど整理整頓を徹底していきたい。 ・子ども10名に対しスタッフ5～6名の手厚い体制ではあるが、それでも足りないと感じることがある(マンツーマンで対応しなければいけない場面がある際など)。職員間の連携に仕方や活動の流れなどを工夫し、チームワークでカバーしていきたい。
	2 職員の配置数は適切である	6	1	・刺激になるようなものは無くし、落ち着いた活動ができるようにしている。スタッフも環境の一部なので、あらかじめ朝スタッフ同士で動きを確認し、刺激にならないようにしている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		・スタッフの急な休みなどで欠員が出た際には、他教室に連絡をヘルプで来てもらうよう調整している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	1	・生活空間は清潔に保てるよう、清掃、アルコール消毒など徹底している。	
業務 改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7			・パート勤務のスタッフも、子どもたちと関わる上での不明点や対応についてを常にクリアに見通せるように、職員会議の時間帯などを工夫して設定してきた。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		・前年度も自己評価及び保護者の方の意見について、職員全員で話し合う場を設け改善案など検討していた。 ・日々の療育について、毎日スタッフ間で振り返りをし業務日報に記録している。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1	・保護者様向け評価表の結果を踏まえた上で事業所としての自己評価も合わせて振り返っている。そこでできた改善点をスタッフで話し合い改善策を出している。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2		

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	7			・朝のミーティングでは時間の制限もあるため伝えきれない部分がある。前日の日誌でわかりやすく記載をしたり、短時間でもうまく伝えられるようにしたい。
	10 子どもへの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2	・毎朝、職員全員でその日の活動や変更したこと、お子さんへの対応について話し合う時間を設けている。 ・活動を立案する際は、個別支援計画を見ながら、書いてある内容を体験できるようにしている。	
	11 個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		・正規職員・パート職員の関係なく意見を述べる場を設けられている。 ・個別支援計画書をスタッフが常に見ることができるようにしている。(事務所内)日頃から目にすることで個別の課題や支援の方法、目標を共有し日々の支援に活かせるよう工夫している。	
	12 個別支援計画に沿った支援が行われている	7			
	13 活動プログラムの立案をチームで行っている	7		・前日までに日誌をLINEワークスで共有し、事前にご自身のようなスタッフ配置でどのような活動を行うかわかりやすく記載している。スタッフも見通しができることで疑問に思ったことなどを当日に話し合えるようにしている。	
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		・支援当日は朝ミーティングを行い、リーダースタッフが日誌を見ながら一日の流れや支援について説明している。話しを進めながら、より良い支援や環境設定を見直し適宜必要に応じて部分的に修正している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		・療育終了後に記録をとりながら行った支援や子どもの様子や課題について共有している。また、HUGの業務日報にその日のヒヤリハット・事故報告・変更点・活動の振り返りや反省、課題など記載し、全スタッフが確認できるようにしている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	7			
	17 定期的なモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	7			
	18 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	2		
	19 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1		
	20 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	・毎日降園時に子どもの様子について保護者の方とお話している。ご自宅や他の事業所・保育園での様子なども聞き、対応を検討することもある。	
	21 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		・小学校へは引き継ぎ書を作成したり、就学先を検討する時点で、見学に来ていただいたりする機会がある。	
	22 他児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3	・保護者様への連絡では、日々降園時にその日の様子などフィードバックし、HUGのサービス提供記録でも詳細を記載し伝えられている。	
	23 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	5	・保護者様のニーズ、意図する物を受け止め、相談、実行していることが感じられる。他の機関とも必要に応じて連携が見られる。	
	24 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会等積極的に参加している	3	4		
	25 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			
	26 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	3	4		

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
保護者への説明等	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされましたか。	12	1		1
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされましたか。	13			1
	12 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていますか。	12			2
	13 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われていますか。	13			1
	14 保護者同士の連携が支援されていますか。	2	5	4	4
	15 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11	1		2
	16 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていますか。	12	1		1
	17 定期的におたよりやホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果等を子どもや保護者に対して発信されていますか。	13			1
18 個人情報の取り扱いに十分注意されていますか。	12	1		1	

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
非常時等の対応	19 防犯対策、感染症予防、非常災害時対応方法について、保護者に周知・説明されていますか。	10	2		2
	20 新型コロナウイルス感染症対策が徹底されていましたか。また、緊急事態宣言発令時の対応について等、不安はありませんでしたか。	10	2		2
	21 非常災害の発生に備え、定期的避難、救出、その他必要な訓練が行われていますか。	14			

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
満足度	22 子どもは通所を楽しみにしていますか。	12	2		
	23 事業所の支援に満足していますか。	13	1		

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果」は、保護者等の皆様「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明等	29 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりや保護者の方同士の交流の機会は少ないように感じる。それでも運動会やクリスマス会を開催したことで、少しずつ交流の場が設けられている。今後も継続したい。 ・地域の関わりは、緑区主催の障害者週間のイベントで事業所へのスタンブレイをやる機会があり、参加できた。子どもたちもいろいろな場所に訪問したり、たくさん歩いたりする良い経験ができたように感じる。今後もそのような機会があれば積極的に参加し、地域との交流も図ってきたい。 ・コロナウイルス感染症もあり保護者会や保育参観などの機会を設けることができなかった。今後は感染症の状況に留意しつつ、保護者の交流の場や話をする機会を作っていきたい。
	30 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	7			
	31 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	32 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	33 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	5		
	34 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	35 定期的におたよりやホームページ等で活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			
	36 個人情報の取扱いに十分注意している	7			
37 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7				
38 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4			

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	39 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	1		<ul style="list-style-type: none"> ・地震などの災害の際、慌てず行動できるよう、スタッフの動きをより詳細にマニュアル化し、各スタッフに配布したい。 ・避難訓練では実際に起きた際にスタッフが訓練を生かして動けるかどうか課題となっている。非常事態でも適切かつ迅速に行動できるようにしたい。常にスタッフが非常時の対応について確認できるように110、119を呼ぶ際の手順カードなど作成し持参するなど工夫していきたい。 ・よりリアルな感覚で非常時に対応できるように訓練を積んでいきたい。
	40 非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			
	41 新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、新しい生活様式に対応した活動内容・支援方法について日々工夫しながら取り組んでいる	7			
	42 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1		
	43 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			
	44 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1		
45 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	2			

事業所における分析・協議・改善案の検討結果

事業所内での分析
<p>【保護者様評価・職員自己評価の共通点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別支援に沿った支援が行われている。 ・保護者会が行われていない。 ・保育参加・保育参観などが行われていない。 <p>【保護者様評価・職員自己評価の相違点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年より意識しているが、整理整頓が不十分な所がある(棚上など) ・非常事態に備えた訓練を行っているが病気(嘔吐、けいれん、アナフィラキシー)などを想定した実際の訓練が足りなかった。 ・HUGの活動記録にて季節の製作の様子などを掲載したが、頻度がもう少し高くても良かった。

分析・検討してみても...
<p>事業所の強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HUGにて利用日の様子や写真を掲載する事で、実際に行っている支援の様子を伝えることができる。 ・同じ活動でも子どもの発達や様子に合わせた課題を設定したり、グルーピングなど設定を工夫している。 ・個別支援計画は、支援の内容についてわかりやすく詳細に記載するようにしている。 ・活動のプログラムは様々なことを経験できるよう固定化されないように工夫している。 <p>事業所の改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症があつて大勢で集まれない状況では、動画配信をするなど日頃の子どもの様子や実際の支援を見てもらえるよう工夫する。 ・感染症が落ち着いている状況では、保護者会や保育参加や保育参観を実施し、日々の様子を見てもらったり保護者同士が交流できる場を作る。 ・整理整頓について、職員全員が意識を高め徹底していく。 ・災害以外の病気、怪我など非常事態を想定した訓練を行っていく。

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・保育参加、保育参観を実施、日頃の様子を見てもらったり保護者同士が交流できる場を実際に設ける。 ・年間の災害計画の他、病気や怪我の場合の訓練を実施し、非常事態に備えた適切な対応ができるようにする。 ・整理整頓について、職員を話し意識を高めていく。整理整頓ができるような棚を用意するなど環境設定も工夫する。